

第33期 報告書

平成24年4月1日 ~ 平成25年3月31日

...for patient comfort.



証券コード：7575

JL Japan Lifeline

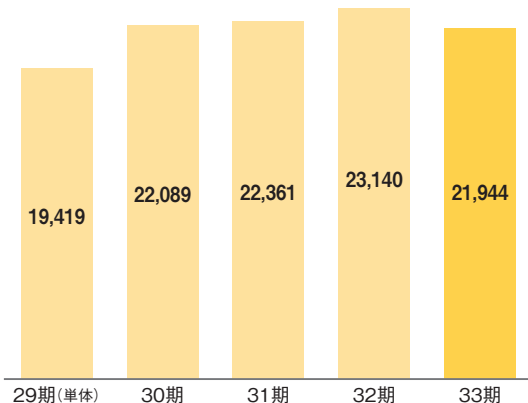
Financial Highlights

主要連結財務データ

※第30期より連結損益計算書を作成しております。

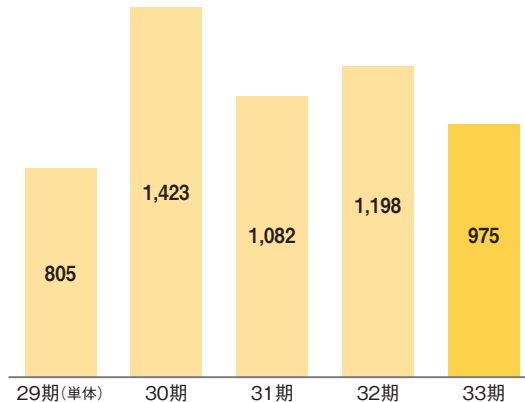
売上高

(単位：百万円)



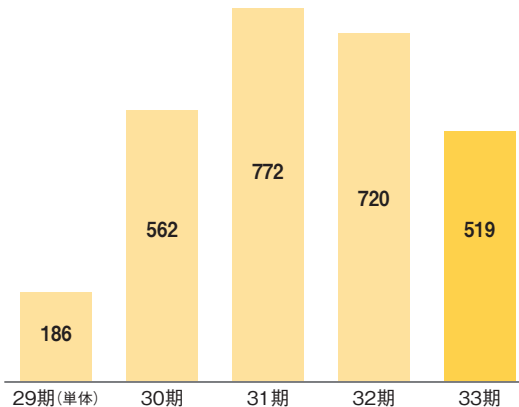
経常利益

(単位：百万円)



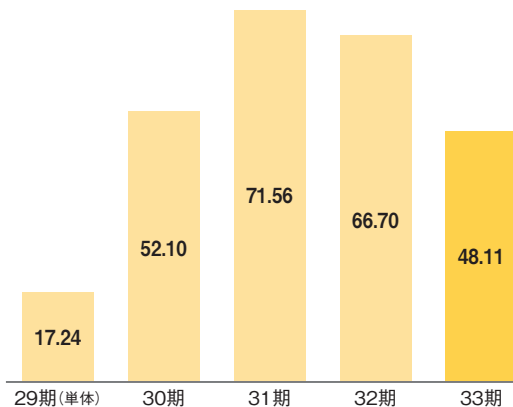
当期純利益

(単位：百万円)



1株当たり当期純利益

(単位：円)



Q- 事業環境について教えてください。

A 当期の医療機器業界におきましては、国の成長戦略における政策課題の一つとして、国内の医療産業の競争力の強化が掲げられ、新医療機器の早期導入に向けた検討がなされるなど、医療機器の開発を後押しする動きがみられました。その一方で、高齢化の進展や医療技術の高度化などを背景として国の医療費は増加が続いており、医療費抑制策の一環として、医療機器の公定価格である保険償還価格は継続的に引き下げられております。

このような事業環境のもと、医療機器メーカー各社は、安定した収益を確保するため、他社との差別化が可能となる、新規性の高い医療機器の導入に向けた取り組みを強化しており、企業間競争も激しさを増しております。

Q- 当期の業績はいかがでしたか？

A 当期におきましては、新製品を発売した自社製品を中心として販売数量が増加したものの、保険償還価格の引き下げによる影響や、一昨年12月に構造的心疾患治療器具の販売を終了したことなどにより、売上高は前期に比べ減少いたしました。また利益面では、保険償還価格の引き下げによる影響がありましたものの、



代表取締役社長 鈴木 啓介

採算性が高い自社製品の売上構成比の増加や新商品の導入により、売上総利益率は前期水準を維持いたしました。また、事業活動の効率化に努めた結果、販売費及び一般管理費は前期に比べ減少いたしました。

以上のことにより、平成25年3月期の連結業績は、売上高219億4千4百万円(前期比5.2%減)、営業利益7億7千4百万円(前期比32.5%減)、経常利益9億7千5百万円(前期比18.6%減)、当期純利益5億1千9百万円(前期比27.9%減)となりました。



Q—各商品の販売状況はいかがでしょう？

A リズムデバイスにおきましては、主力の心臓ペースメーカーで保険償還価格の引き下げが13.8%と大幅であったことや、下期に競合製品の影響を受けたことにより、売上高が減少いたしました。

自社製品を扱うEP／アブレーションにおきましては、昨年10月より本格販売を開始したオンリーワン製品である心腔内除細動システム「SHOCK AT(ショック・AT)」が伸長したことから、売上高は前期比20.7%の増加となりました。

外科関連におきましては、本年1月に発売した生体弁「Mitroflow(マイトロフロー)」が順調に販売数量を伸ばしました。

インターベンションにおきましては、自社製品であるガイドワイヤーの販売数量が増加したものの、バルーンカ

テーテルの保険償還価格の引き下げが大幅であったことや、一昨年の12月に構造的心疾患治療器具の販売を終了したことから、前期に比べ売上高は減少いたしました。

Q—外科関連の商品ラインナップの強化について教えてください。

A 外科関連では、二つの成長市場への参入を果たしました。まずその一つが心臓弁膜症を治療する生体弁です。近年、心臓弁膜症の治療方法が、機械弁から生体弁や人工弁輪へと移行していることから、当社といたしましても生体弁の導入準備を進めてまいりました。昨年発売した人工弁輪に続き、本年1月の生体弁の発売により、心臓弁膜症治療においては商品ラインナップが揃ったといえます。

次に、大動脈瘤の治療分野では従来から取り扱う人工血管に加えて、胸部用ステントグラフト「RELAY Plus(リレイ・プラス)」をこの5月に発売いたしました。ステントグラフトは外科手術を行わずに、カテーテルを用いて経皮的に大動脈瘤を治療する医療機器であり、低侵襲な治療が可能なることから、国内においても急速に症例数が増加しております。

「RELAY Plus」は豊富な経験を持つ医師からも、既に高い評価を頂いております。当社といたしましては、ステントグラフトを外科関連ビジネスにおける重要商品として位置付けており、販売体制の強化を図ることにより、早期の普及を目指してまいります。



胸部用ステントグラフト「RELAY Plus」

Q-アブレーション関連で導入予定の 独自商品について教えてください。

A 当社ではEPカテーテル、アブレーションカテーテルや心腔内除細動システムなどの自社製品において、既に高い市場シェアを有しております。さらにこれらの自社製品とのシナジーが見込まれる、高周波心房中隔穿孔システムというオンリーワン商品の薬事承認を取得し、今夏に本格導入を予定しております。これは心房細動のアブレーション治療の際に、左右の心房の間にある壁に、高周波でカテーテルを通すための穴を開ける医療機器です。

本商品は従来の金属製の鋭い針に比べて安全性が高く、様々な症例に対応することが可能です。その有用性が認められ、早期に薬事承認を取得し、保険適用を受けた商品であることから、広く普及するものと見込んでおります。

Q-来期の見通しはいかがでしょうか？

A リズムデバイスにおきましては、来期も厳しい競争環境が続くことが予想されます。その一方で、心腔内除細動システムおよび生体弁が来期は通期での販売となることに加え、本年5月に発売した胸部用ステントグラフトによる寄与も見込まれることから、売上高は当期に比べ増加する見通しです。

また利益面におきましては、売上総利益の増加が販売費及び一般管理費の増加を吸収し、営業利益、経常利益ともに増益となる見通しです。当期純利益におきましては、当期に計上した特別利益の計上を予定していないことから減益を見込んでおります。

以上により、平成26年3月期の業績見通しといたしましては、売上高240億7千4百万円(前期比9.7%増)、営業利益10億7千9百万円(前期比39.3%増)、経常利益10億8千1百万円(前期比10.8%増)、当期純利益4億6千1百万円(前期比11.2%減)を見込んでおります。

当社では今後も最新の医療機器を速やかに国内へ導入するとともに、医療現場のニーズを的確に活かした自社製品の開発および導入に努めることにより、「病める人のために最新最適な医療機器を提供することを通じて社会貢献する」という企業理念の実現に向けて取り組んでまいります。

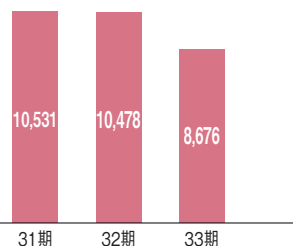
株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

リズムデバイス

主要取扱品目

- 心臓ペースメーカー
- ICD(植込み型除細動器)
- CRT-D(除細動機能付き両心室ペースメーカー)

売上高 (単位:百万円)

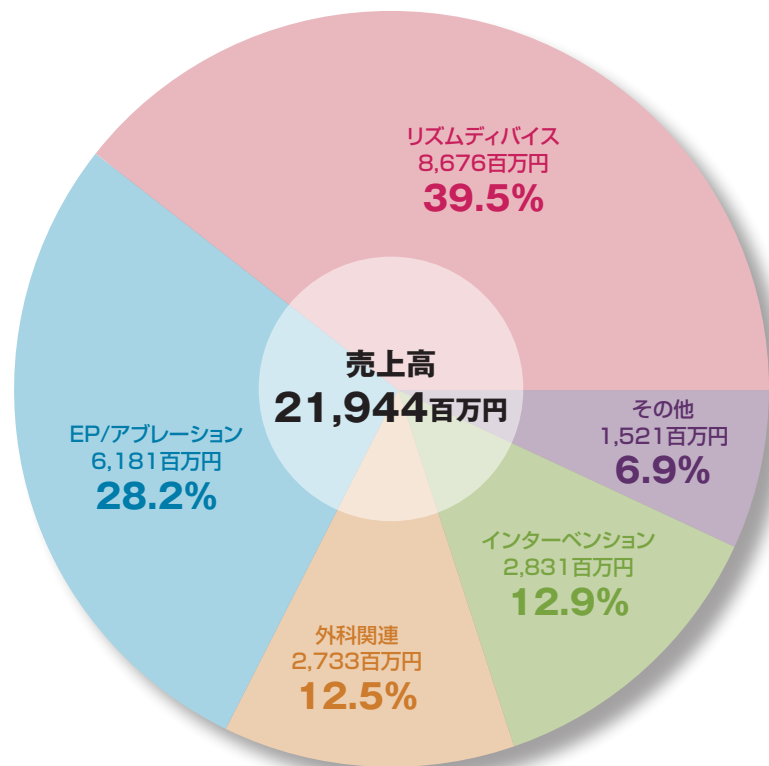


リズムデバイスにおきましては、主力である心臓ペースメーカーの保険償還価格が13.8%下落したほか、競合製品による影響を受けたことから、売上高は減少いたしました。また、ICD関連につきましては、成長領域として位置付け、取り組みを強化しておりますものの、競合各社も注力しており厳しい競争環境にあることから、前期に比べ売上高は減少いたしました。

以上により、リズムデバイスの売上高は86億7千6百万円(前期比17.2%減)となりました。



心臓ペースメーカー

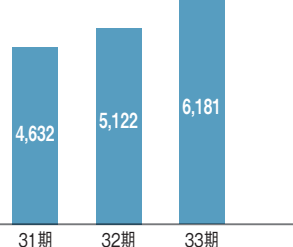


EP/アブレーション

主要取扱品目

- EP(電気生理用)カテーテル
- アブレーションカテーテル
- 心腔内除細動カテーテル

売上高 (単位:百万円)



EP/アブレーションにおきましては、「EPstar Libero(EPスター・リベロ)」などの既存製品が引き続き好調に推移したほか、昨年10月に販売を開始したオンリーワン製品である心腔内除細動システム「SHOCK AT(ショック・AT)」が計画を上回る実績となりました。

また、アブレーションカテーテルは、前期に比べ販売数量は増加したものの、保険償還価格引き下げの影響から売上高は減少いたしました。

以上により、EP/アブレーションの売上高は61億8千1百万円(前期比20.7%増)となりました。



心腔内除細動カテーテル

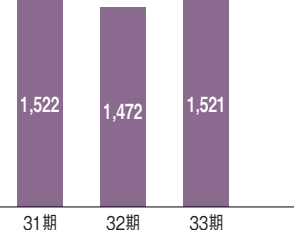
その他

主要取扱品目

- 血液浄化関連商品

連結子会社で販売する血液浄化関連商品等のその他の売上高は、15億2千1百万円(前期比3.3%増)となりました。

売上高 (単位:百万円)

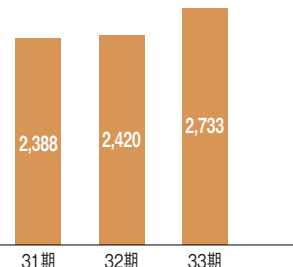


外科関連

主要取扱品目

- 人工血管
- 人工弁輪
- 人工心臓弁
- 人工肺

売上高 (単位:百万円)



外科関連におきましては、本年1月より生体弁「Mitroflow(マイトロフロー)」の販売を開始いたしました。「Mitroflow」は広い弁口面積を持ちながらもコンパクトなサイズを実現しており、狭小弁輪の患者様においても植込みがしやすいという特長を持つことから、順調に販売数量を伸ばしております。

人工血管につきましては、唯一の国産製品である「J Graft(ジェイ・グラフト)」が堅調に推移し、前期に比べ売上高が増加いたしました。

以上により、外科関連の売上高は27億3千3百万円(前期比12.9%増)となりました。



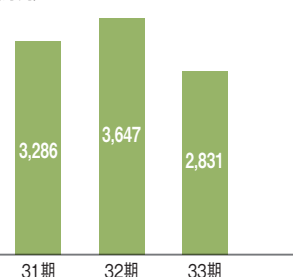
生体弁

インターベンション

主要取扱品目

- バルーンカテーテル
- ガイドワイヤー

売上高 (単位:百万円)



ガイドワイヤーにつきましては、優れた操作性と高い耐久性を持つ「ATHLETE JOKER(アスリート・ジョーカー)」の寄与により、販売数量は前期に比べ24.3%の増加となりました。バルーンカテーテルは前期に比べ販売数量が増加したものの、保険償還価格の引き下げが大幅であったことから、売上高は減少いたしました。

また、一昨年12月の構造的な心疾患治療器具の販売終了による影響もあり、インターベンションの売上高は28億3千1百万円(前期比22.4%減)となりました。



ガイドワイヤー
(イメージ図)

●流動資産

新規に販売を開始いたしました心腔内除細動システム「SHOCK AT」および生体弁「Mitroflow」の在庫により、たな卸資産が6億3千4百万円増加した一方で、現金及び預金が3億2千万円、受取手形及び売掛金が4億6千7百万円減少したこと等により、流動資産は前期末に比べ1億5千1百万円減少いたしました。

●固定資産

連結子会社の工場増築等により有形固定資産が7億7千1百万円増加したこと等により、固定資産は前期末に比べ10億3千1百万円増加いたしました。

●固定負債

設備投資資金を新規に実行したことにより長期借入金が5億5百万円増加したこと等により、固定負債は前期末に比べ6億8千4百万円増加いたしました。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	33期(当期)	32期(前期)
	平成25年3月31日現在	平成24年3月31日現在
資産の部		
●流動資産	17,420	17,571
現金及び預金	2,273	2,594
受取手形及び売掛金	6,375	6,842
たな卸資産	7,348	6,713
その他の流動資産	1,422	1,421
●固定資産	9,689	8,658
有形固定資産	4,994	4,222
無形固定資産	30	39
投資その他の資産	4,664	4,396
資産合計	27,110	26,230
負債の部		
流動負債	7,937	8,088
支払手形及び買掛金	1,427	1,454
短期借入金	4,170	3,870
その他の流動負債	2,339	2,763
●固定負債	3,759	3,074
負債合計	11,697	11,162
純資産の部		
株主資本	15,338	15,088
資本金	2,115	2,115
資本剰余金	2,328	2,328
利益剰余金	11,246	10,996
自己株式	△351	△351
その他の包括利益累計額	74	△21
その他有価証券評価差額金	74	△21
純資産合計	15,412	15,067
負債純資産合計	27,110	26,230

Consolidated Financial Statements

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	33期(当期)	32期(前期)
	平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで	平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで
売上高	21,944	23,140
売上原価	10,681	11,198
売上総利益	11,262	11,942
販売費及び一般管理費	10,487	10,794
営業利益	774	1,147
営業外収益	238	87
営業外費用	37	36
経常利益	975	1,198
特別利益	250	464
特別損失	134	70
税金等調整前当期純利益	1,091	1,592
法人税等	571	872
少数株主損益調整前当期純利益	519	720
当期純利益	519	720

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	33期(当期)	32期(前期)
	平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで	平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	816	1,353
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,590	△2,988
財務活動によるキャッシュ・フロー	452	1,560
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△320	△74
現金及び現金同等物の期首残高	3,000	3,074
現金及び現金同等物の期末残高	2,679	3,000

●売上総利益

売上構成における自社製品比率の増加や、新規性の高い優れた商品を導入し、販売単価の維持に努めたことにより、売上総利益率は前期の保険償還価格改定以前の水準を概ね維持する結果となりました。

連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

33期(当期) 平成24年4月1日から平成25年3月31日まで	株主資本					その他の包括利益累計額	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	
平成24年4月1日残高	2,115	2,328	10,996	△ 351	15,088	△ 21	15,067
連結会計年度中の変動額							
剰余金の配当			△ 270		△ 270		△ 270
当期純利益			519		519		519
自己株式の取得				△ 0	△ 0		△ 0
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						95	95
連結会計年度中の変動額合計	—	—	249	△ 0	249	95	345
平成25年3月31日残高	2,115	2,328	11,246	△ 351	15,338	74	15,412

会社概要

(平成25年3月31日現在)

商号	日本ライフライン株式会社
所在地	東京都品川区東品川二丁目2番20号
設立	昭和56年2月6日
資本金	2,115,241,600円
従業員数	連結595名 単体519名
上場取引所	大阪証券取引所 JASDAQ市場
連結子会社	JUNKEN MEDICAL株式会社

役員

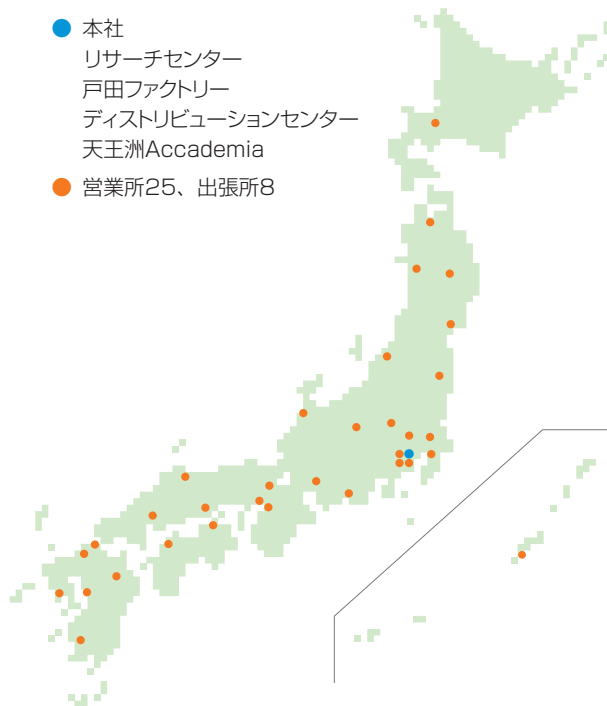
(平成25年6月26日現在)

代表取締役会長	増本 武司	常勤監査役	上田 勝啓
代表取締役社長	鈴木 啓介	監査役	苅米 裕
取締役副社長	鈴木 厚宏	監査役	中村 勝彦
専務取締役	政次 浩二		
常務取締役	高橋 省悟		
取締役	長濱 岳司		
取締役	黒沼 孝之		
取締役	佐々木文裕		

事業所

(平成25年3月31日現在)

- 本社
リサーチセンター
戸田ファクトリー
ディストリビューションセンター
天王洲Accademia
- 営業所25、出張所8



- 最新の会社情報およびIR情報は当社ホームページをご覧ください。

<http://www.jll.co.jp>



投資家情報メールマガジン

“IR-eNews”

IRの最新情報をお届けしております。ご登録は、当社ホームページの投資家情報ページよりお願いいたします。

株式の状況

(平成25年3月31日現在)

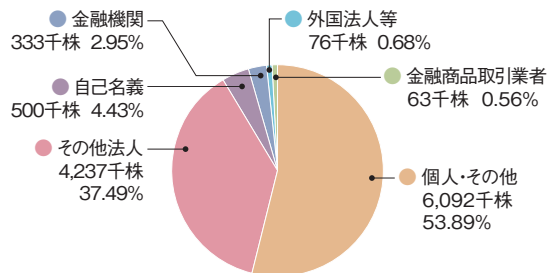
発行可能株式総数	43,300,000株
発行済株式の総数	11,302,497株
株主数	4,485名

大株主

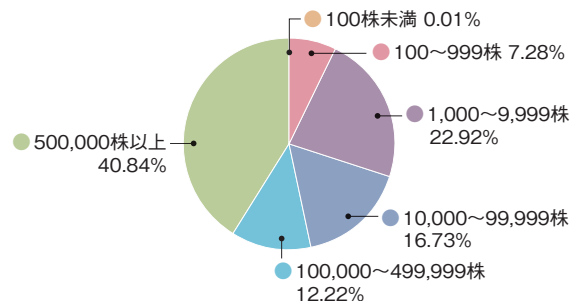
株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
エムティ商会株式会社	3,020	27.96
KS商事株式会社	1,096	10.15
鈴木啓介	331	3.07
増本武司	307	2.85
日本ライフライン従業員持株会	173	1.61
上田勝啓	134	1.24
加藤力蔵	118	1.10
長濱岳司	116	1.07
日本生命保険相互会社	100	0.93
株式会社千葉銀行	100	0.93

(注) 1. 上位10名に記載していない500,541株を、自己株式として保有しております。
 2. 持株比率は、自己株式(500,541株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布

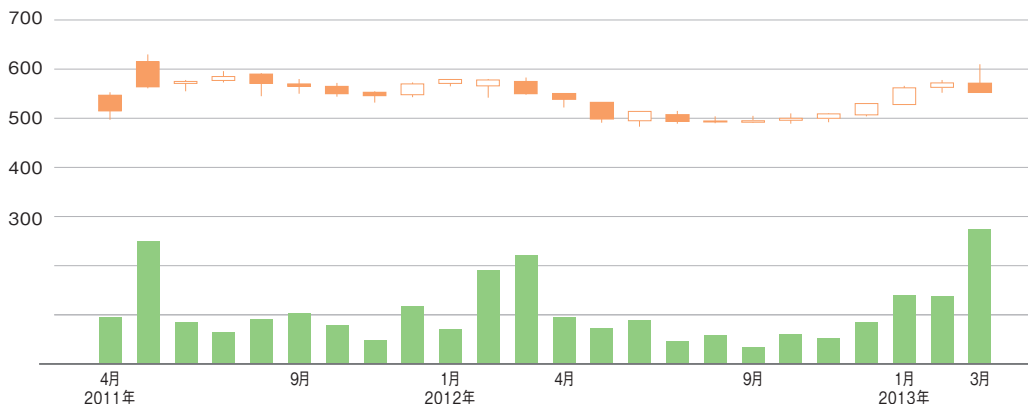


所有数別株式分布



株価・出来高の推移(月足)

■ 株価(単位:円) ■ 出来高(単位:万株)



株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
単元株式数	100株
定時株主総会の基準日	3月31日
配当金受領株主確定日	3月31日 なお、中間配当を実施する場合の株主確定日は、9月30日といたします。
公告方法	電子公告の方法により行います。 公告掲載URL http://www.jll.co.jp ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
〈お問合せ先〉	0120-232-711(通話料無料)
〈インターネットホームページ〉	http://www.tr.mufg.jp/daikou/

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

1.住所変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受取方法の指定・変更等

- ▶証券会社等の口座に株式をお持ちの株主様
口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
- ▶特定口座に記録された株式をお持ちの株主様
上記特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。

2.未受領の配当金について

未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

本報告書の記載内容のうち、歴史的事実以外の事項につきましては、現時点で入手可能な情報に基づく当社の計画または将来予測であります。

実際の業績はさまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本報告書の記載と異なる可能性がありますことにご留意ください。

日本ライフライン株式会社

〒140-0002

東京都品川区東品川二丁目2番20号

電話 03-6711-5200

URL <http://www.jll.co.jp>